

# 令和5年度 社会福祉法人 恵寿会 経営方針

キーワード

## 「継続するための改革と進化」

「福祉」とりわけ「介護」の分野における“ゴール地点”というのはなかなか見出しにくいものです。日々、ご利用者が幸せを感じられるような生活が送れるよう、業務を継続することが大きな使命の一つです。また保育の分野は保育園生活だけでなく園児たちの成長を見守り続けていく使命があります。

「継続する」ということは、毎日同じことをただ繰り返すということでしょうか？

偉業を達成するようなスポーツ選手は、試合や練習においてルーティンも大切ですが、周囲の変化やルール変更などに合わせて思考や行動、練習内容を変え、進化させているはずで

同じことを継続するのではなく、継続するためには改革し、進化することが必要です。介護報酬の改定や ICT 化など、時代は絶えず変化し、この福祉における分野でも同様に継続をするためには自らを進化させていく必要があります。

「継続して“結果”や“意義”を出し続けること」は「新たに何かを始めること」よりも難しく、継続のために目標や内容を見直し、進化続けることが大切です。

恵寿会は 40 年の歴史を継承し、これからも進化し続けます。

### 1. ご利用者(園児)・ご家族(保護者)・地域

恵寿会のサービスを利用されているご利用者(園児)に対し、平穏で実りある毎日を提供し続けることが出来るよう、進化をしていきます。

日々のルーティン業務を考える中で、ご利用者(園児)の個別性を尊重し、細やかな配慮を心掛けたサービスの提供を継続します。そして毎日の過ごし方について、清潔感のある快適な環境づくりを職員が意見を出し合い、施設全体で実践します。

また、外部要因による災害や防犯のリスク回避のための計画や訓練を更新し、内部要因による事故や感染等はマニュアルを整備・確認の上、周知徹底を図ります。

コロナ禍において、地域との結び付きが脆弱になっており、今後は感染対策を考慮した上で、お互いに実りのある新しいかたちを模索し、提案・実践していきます。地域と法人、

相互のボランティア活動や、公益的取組、また災害時における避難所としての役割等、地域からの期待に沿えるよう、コロナ後の新たな地域共生社会を目指します。

## 2. 職員

“より良い”サービスを継続して提供するために最も必要な職員(人財)が「進化し続ける集団」となるよう個人だけでなくチームとしても向上していきます。

昨年度、リーダー的な存在となる指導的職員に対し年間を通じて育成研修を実施しました。研修内容によっては当初計画通りに実施出来なかったものが有り、今年度は内容をマイナーチェンジして継続します。その研修において役職者を中心とした指導的職員が進化し続けることで、部署全体や施設全体のチーム力を進化させます。

また職員一人ひとりがご利用者や園児に対してのサービス提供はもとより、自分自身又はチームの業務効率化(IT 機器の導入を含め)、働きやすい環境づくり等、様々なものに対して「考える」という力を養い、自己目標の適切な設定とその実現を目指して成長し続けられるよう策を講じます。具体的には施設長との面談、外部研修への参加、資質に適した職場配置等、向上心のある職員としっかり向き合います。

制度面では、職員それぞれの立場におけるモチベーションが向上するような給与体系の検討や処遇改善加算の活用を行ないます。

また、コロナ禍においても少しずつ職員間のコミュニケーションがはかれるよう考えていきます。

## 3. 法人

法人が継続していくためにご利用者や園児、職員の存在が必要であることは当然のことながら、そのためには自らが改革し進化を続けることの重要性を受け止め、対策を検討します。

出雲サンホームは、施設入所のご利用者をしっかりと定員まで維持しつつ、その方々にとって居心地の良い環境を提供します。そのために建設から 40 年を経過した建物の全面改修に取り掛かります。そして改修によって生み出されたスペースの有効活用として、ニーズの高い事業の新設や既存事業の拡大、あるいは地域貢献事業等を検討します。

移転から 3 年目を迎えるサン・スマイルは、地元住民からの期待も高く、全ての事業がフル回転するような体制整備と管理を徹底します。地域と施設が相互に助け合い、無くてはならない関係を構築します。“終の棲家”の宿命でもある「看取り」についても嘱託医師とともに検討を進めます。

出雲サンサン保育園は設立から 20 年目に入ります。出雲市内の大規模保育園では定員削減の要望が相次いでいる中、小規模保育の強みを活かしながら安定した運営を継続します。保育の本質は変えず、時代の流れには対応した方針の策定に取り掛かります。今年度は、旧斐川サンホームの建物解体を予定しており、解体後の利用方法について最終検討を行ないます。

全ての事業所が状況に応じて改革し、進化を続けることで、関係する全ての人が幸せを感じることが出来る法人を目指します。